

「〜」と言いながらリズムミカルに描いたりすると、ペンの動きや描かれていく線をじっと見る様子があります。一枚の画用紙がいっぱいになり、新しいページにする時も目を離すことはなく、次を待っているように感じられます。再び描き始めると、描かれていく線やペンの動きをじっと目で追い、集中しているような表情で見えています。一枚目がいっぱいになり表紙を閉じて職員が離れると、それまで集中していた表情はふっとなくなり、違うところに視線を移しました。ものの動きや描かれていく線に興味があり、普段では見られない集中した良い時間が過ごせたと感じました。

Bさん(横地分類B4)は、職員が歌いかけると体を前後させたり首を横に振ったりして、歌に合わせてリズムをとる様子があります。そのため日常生活では、歌いかけや語りかけのリズムを感じて楽しめると考えました。やさしく歌いかけると、リズムに合わせて身体を揺らし始めます。段々体の揺れが大きくなり顔も上がってきます。次第に表情も明るくなり、歌のリズムを心地よく感じているように見えました。また、絵本の『おおきなかぶ』の、「おじい

さんがかぶをひっぱって〜」の語りかけの後に「うんとこしょ、どっこいしょ」のフレーズに合わせてBさんの肩をタッチングすると、リズムに合わせて体を前後に揺らしたり、手でリズムをとったりする様子がありました。何回か繰り返し、タッチングの前に少し間を空けると、体の動きが止まり次の語りかけやタッチングを待っているような表情があり、耳を傾けているように見えました。その後、肩にタッチングをした時、いっそうリズムをとる動きが大きくなり、表情もより明るく感じられました。

ひとりひとり興味関心は違いますが、もっと見たい、もっと聴きたいという気持ちがある中から生まれ、利用者の心を揺さぶるような充実した時間を作っていききたいと思えます。



**ひかりの子の
日常生活紹介**
佐原 央子

児童発達支援センターひかりの子は就学前の幼児を対象とした通所部門で、現在1歳半から6歳までの30名(横地分類A1が10名、A2が8名、B4が3名、A4が2名、C4が2名、A2-D、A4-D、A6、B2、C5-Dが各1名)が在籍しています。今年の4月から重症心身障害児・肢体不自由児の2つのクラスに分かれて日中の保育時間を過ごしています。

重症心身障害児クラスでは紙・ボール・音・絵本の4つの遊びを中心に行っています。3ヶ月ずつ同じ遊びを続ける中で表情や体の動きをみながらじっくり関わっていきます。7月から9月はボール遊びを行いました。ボールプールの上で仰向けになり身体全体で素材の感触を感じて穏やかな表情を見せる子、目の前をボールが転がっていくのを目で追う子、掌サイズのボールを握っては投げの子というように、同じ素材を使った遊びでも楽しみの要素はひとりひとり違います。

Aちゃん(横地分類A2)

はクッションチェアに座り、足元にあるビーチボールをじっと見つめていました。向き合うように立った職員が「ボールちょうだい」と声をかけると、職員の方を向いて笑顔になり両足を交互に動かししました。職員の所に届いたボールを、もう一度Aちゃんに向けて転がすと、ボールの動きを見て声をあげ一段と勢いよく両足を動かしました。声をあげながら笑顔で足を動かす様子からは、Aちゃんがボールを通じて職員と遊びを楽しんでいる気持ちが伝わってきました。

肢体不自由児クラスでは運動・音楽・感触・製作を中心に行っています。保育の内容は毎日変わります。友達と一緒に過ごすことを楽しみ、自分でできた達成感を味わえるよう関わっています。時には遊び道具も子ども達と一緒に作ります。ボール遊びでの的を作った時には的を作りました。

Bちゃん(横地分類C5-D)は職員が見本で作ったものを見せると、笑顔で片手を挙げ自分も作りたいという気持ちを表現します。数種類の中から好みの形の紙とシールを選び、一つ一つ丁寧に貼っていききました。的ができて



あがると笑顔で周囲に見せ、自分で作ったことを喜んでいました。その後、Bちゃんも作った的にお友達の作った的を加えて並べ、皆的をあてて楽しみました。クラスのお友達との周りの集まって順番にボールを投げて遊びました。正座で座り、片手でつかめる大きさのカラールールを使い、手を振り上げるようにして投げます。ボールが的を外れると人差し指を立てて、もう1回やるねと周囲に伝え真剣な表情になりました。的に少し近づき再度挑戦します。投げたボールが的が倒れると笑顔になり、お友達とハイタッチをして喜んでいました。お友達が投げる時もボールの行方に視線を送り、的に当たると一緒に喜び合っていました。

どちらのクラスでも、発達に合った遊びを提供していきたいと思えます。